

肱川流域の地域防災力の向上のため、
流域内の高校生によるパネルディスカッション等を実施します。

－「だんだん肱川」の開催について－

本年3月の東日本大震災、9月の台風などの自然災害により多くの尊い人命、貴重な財産が奪われています。肱川においても台風15号豪雨により「菅田地区」、「西大洲地区」などで深刻な浸水被害が発生しました。また、東南海・南海地震による地震・津波災害、ゲリラ豪雨の多発による水害・土砂災害など壊滅的な自然災害が心配されます。

このような自然災害による壊滅的被害から人命を守るためには、行政が行う社会資本整備に加えて、我々流域住民自らが地域防災力を高めることが非常に重要です。

肱川流域会議水中めがねでは、愛媛大学防災情報研究センターと連携し、防災・減災をテーマに「だんだん肱川」を開催します。「だんだん肱川」では、深刻な自然災害が頻発しているこの時機に、肱川流域の未来を担う高校生により、今一度、「防災・減災を考える」と題して、パネルディスカッションなどを行う予定です。

1. 日 時：平成23年12月10日(土) 13:00～16:00(開場：12:30)
2. 場 所：大洲市総合福祉センター（大洲市東大洲）
3. 主 催：肱川流域会議水中めがね
4. 共 催：愛媛大学防災情報研究センター
5. 後 援：大洲市、伊予市、西予市、砥部町、内子町
6. プログラム（別紙1参照）
 - (1) 基調講演
「全国各地で頻発する自然災害 その現状と課題」 防災情報研究センター 板屋英治
 - (2) 「アジア各国の防災・減災」 愛媛大学 留学生
 - (3) 高校生による「防災・減災を考える」 肱川流域の参加高校生（別紙2参照）
7. その他 入場料無料

平成23年12月2日

肱川流域会議水中めがね、愛媛大学防災情報研究センター

* 「だんだん肱川」は、(社)全国土木管理技士会連合会のCPDS認定学習プログラムとしてユニットが取得できます。

問い合わせ先 肱川流域会議水中めがね 副会長 井関敬一 0893-24-2430

だんだん肱川 プログラム

1. 日時 平成23年12月10日(土) 9時30分～16時
2. 場所 大洲市総合福祉センター 多目的ホール
3. プログラム
 - 12:30 受付開始
 - 13:00～13:05 肱川流域会議水中めがね 坂本会長挨拶
 - 13:05～13:15 来賓挨拶
 - 13:15～14:00 基調講演
「全国各地で頻発する自然災害 その現状と課題」
愛媛大学防災情報研究センター
副センター長 板屋教授
 - 14:00～14:30 報告「アジア各国の防災・減災について」
愛媛大学 留学生(韓国、タイ、ネパール)
 - 14:30～14:40 休憩
 - 14:40～16:00 流域の高校生による「肱川の防災・減災を考える」
 - 14:40～15:50 パネルディスカッション
 - 15:50～15:55 肱川宣言
 - 15:55～16:00 総評 愛媛大学防災情報研究センター
センター長 矢田部教授
 - 16:00 閉会

//////////
*なお、14時～16時の【流域の高校生による「肱川の防災・減災を考える」】に先立ち、10時～12時の予定で下記のとおり高校生等による分科会を開催します。分科会の取材も可能です。

分科会スケジュール

- 9時30分～ 受付
- 10時00分～12時00分 分科会
 - 10:00～10:05 肱川流域会議水中めがね 坂本会長挨拶
 - 10:05～10:15 パネルディスカッション主旨説明
 - 10:15～10:45 愛媛大学板屋教授 事前説明
「肱川流域で起こりうる自然災害」
「自助、共助、公助の概要」
 - 10:45～10:55 休憩
 - 10:55～12:00 分科会別討議
分科会は、①【知る(情報)】②【逃げる(自助)】、
③【助ける(共助)】のテーマ別に開催します。

流域の高校生による「肱川の防災・減災を考える」について

従来、地域の防災は、行政が実施する堤防などの社会資本整備【公助】に依存してきました。このような社会資本は、災害の外力が一定の規模以下では有効に機能します。しかし、東日本大震災やゲリラ豪雨などの想像を上回る地震・津波災害、水害・土砂災害に対しては、必ずしも十分とは言えない状況にあります。

このような大規模な自然災害時には、公助に加えて、「自分の安全は自分で守る【自助】」、「地域内での助け合い【共助】」が、一体となって地域社会として自然災害に立ち向かうことが必要です。

しかし、残念ながら現実には、災害に対峙しているのは行政であり、住民はその庇護の下にいる構造と言わざるを得ません。大規模な自然災害による壊滅的な被害を減災させるため、自助、共助、公助が一体となって地域防災力を向上させることが急務であると考えます。

このため、肱川流域の未来を担う高校生を中心として、【自助（＝逃げる）】、【共助（＝助ける）】及びそのために必要な【情報（＝知る）】をテーマに分科会及びパネルディスカッションを開催します。

分科会及びパネルディスカッションの参加校等は下記のとおりです。

表 テーマ別の参加高校及び人数

テーマ	高校名	分科会 参加人数	パネルディスカッション参	
			加人数	各校代表1名
知る 【情報】	帝京第五高校(3)、 内子高校(5)、宇和高校(5)	13名	3名	
逃げる 【自助】	大洲農高(5)、長浜高校(4) 小田高校(5)	14名	3名	
助ける 【共助】	大洲高校(4)、中山高校(4) 帝京富士高校(2) 野村高校(5)	15名	4名	
計	10校	42名	10名	

また、パネルディスカッションでは参加校の代表者10名に、防災のアドバイザーとして、愛媛大学防災情報研究センター長の矢田部教授【公助（行政）】のアドバイザーとして、国土交通省四国地方整備局の森河川部長に参加していただくとともに、コーディネーターとして肱川流域会議の井関副会長の3名を加え総勢13名で行います。

肱川流域会議 水中めがね

会長・坂本芳教

★「水中めがね」設立主旨★

21世紀を迎えて、私たちの街（肱川流域）は、成熟社会の到来に伴い、多種多様な問題や困難を抱えております。太古の昔より、豊かな生活の恵みを与えてくれた肱川も、その例外ではありません。

今、私たちは肱川の現状を十分に把握し肱川及び肱川流域の将来を住民ひとりひとりが真剣に考え行動に移していかなければならないときに来ています。

私たちは、故郷である肱川とその流域のことを熱く語り、自分の出来ることから少しでも活躍の輪を広げ〈森〉・〈川〉・〈海〉を合言葉に、環境と共存共栄出来る地域社会を目指したいと考えています。

このため「水中めがね」では、肱川（流域）のことについて関心をもっている人々の情報や思いを出し合って、課題や可能性について理解を深め、尊重し関係者間の友好を築き上げることが必要であると考えています。

『肱川流域人』として〈いい肱川〉を次世代に残すことを目指し設立した団体です。



～「肱川流域会議 水中めがね」とは～

本会は、1999年9月9日に設立。

会員数は平成23年度当初で、160名にたっし、会員用メール配信への登録アドレス数は約230件を数える。

主な会員は、流域内の様々な企業、行政の他、流域内の市民。肱川流域から巣立っていった方々など多岐にわたり、〈市民〉〈企業〉〈行政〉のネットワークを構築し活動。

最近では、愛媛大学との連携を強化。シンポジウムなど様々な活動を協働で実施。

毎月例会を開き、前回の反省に始まり、今後の予定について、会員相互の意見交換の実施。

今なお、「会員数の増」「会員の気質向上」に邁進。

その活動の場を拡大している。



★「水中めがね」主な活動内容★

4月 「矢落川大清掃」

矢落川は、大洲市内の下水やゴミなどが流れ込み、今水質が問題となっている川です。

そこで私達は、直接矢落川に入って川の現状を見つめながら、清掃活動を行っています。



7月 「肱北河原大清掃」

肱北河原は、大洲市内を流れる肱川の景観スポットの1つです。

しかし、河原には雑草が繁茂しています。ここは、芋炊きや花火大会、鶴飼い、ジューニアライズなど、年間を通じ利用されることが多いところです。雑草を除草し、ゴミをひろい、清潔にすることで市民に愛される肱北河原を復活させることを目的に、清掃活動を行っています。



11月 「だんだん肱川」

「だんだん」とは「ありがとう」を意味する言葉であり、上下流の人々がお互いに感謝するとともに、流域の人々が肱川に対して感謝する機会になればと、流域内高校生の参加により各種学習会・意見交換会等のフォーラムを開催しています。

平成16年度よりこれまで6回開催しています。



12月 「年末ゴミノケーション」

東大洲地区は、大洲市街地の玄関であるが、車等から、ゴミの不法投棄がなされ、ペットボトル・空き瓶・空き缶等のゴミが散乱しています。

12月末には、ふるさと肱川に多くの方が帰って来ます。

その方達に、少しでも気分良く帰ってきて貰うため、清掃活動を行っています。



その他、行政の主催である取り組みへの参画。

愛媛県立大洲農業高等学校主催の「菜の花フェスタ」へ参加。等

肱川流域会議 水中めがね

事務局 大洲市新谷乙 492-2 TEL 0893-25-1117